

天地人

清記用紙(番号)

()

()

(写)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
夏は夏らしく心身晒すのみ	昼寝覚めわたしの形たしかめる	四針己の石をさがしけり	十一時二分ペン置置く長崎志	流の音頼りに登る獣道	四十年紅高く妣の家	カツとなる廿にや鳳仙花	膝本に思わぬ事実鳳仙花	家ちゅうに風を走らせ盆の入	火の国を切り裂く地震酷暑なほ

代表選者

選句用紙

選者名

上田秋霜

入選

特選

特	6	5	4	3	2	1
鳳仙花障子一枚開ぬ残す	勝本に思はぬ事実鳳仙花	伏し目なる青児の少女晩夏光	昭和史の破片刺さります夏の夏	薫り立つ一夜孤高の月下美人	触れないで私の髪に鳳仙花	Tシャツのカレーのしみや鳳仙花

選句用紙

選者名 近藤和卓

特	6	5	4	3	2	1
						弱虫の遠い故郷りんご園
					夏は夏らしくい身晒すのみ	
				家じやうに風を走らせ盆の入		
			山薨や戸棚の奥の処方箋			
		星涼し区画の端の精米所				
	どつどつど腰の子動く盆踊					
	未っ子をまん中にして盆休み					

選句用紙

選者名

桃紅

1	すぐ渴く愛なりありて大蘇鉄
2	刀豆 ^{なた} やスパイの如く会話する
3	昼寝覚わたしの形たしかめる
4	日盛の露地極楽の余り風
5	電話口母笑はせて今朝の秋
6	同僚の机へ檸檬ひとつずつ
特	長崎忌二畳一間のマリア像

選句用紙

選者名

平 革

特	6	5	4	3	2	1
お隣りの雨戸が閉まりて避暑帰り	母愛より紅きつりルや鳳仙花	鰻魚この石をさかしけり	妻の手が遮る二杯めのビール	電話に母笑はせて今朝の秋	アヘリアりぬすかに揺れて羽の音	A傘からはみ出する赤のランドセル

選句用紙

選者名 真一

特	6	5	4	3	2	1
夕焼けの颯羽りてロックスフェスは佳境	昭和史の破片剥さりしまきの夏	黙禱のサイレン朱夏の甲子園	かゝとびる女心や鳳仙花	観光バス降りて連小涼新た	鳳仙花遊びごろは寝へず	大仏の頬のてがりや晩夏光

清記用紙 (番号) 選句

(飯田)

守彦 (選)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			せがむ子の肌の近き氷水	たどたどしひらがな並ぶ星祭	山薊 ヤマアゲ の戸棚の奥の処方箋	園庭に染 は ぐ声なく鳳仙花	店先は金魚すくいの名人 めいじん 丸	黙禱の長き祈りや蟬時雨	末つ子とまん中にして盆休み

選句用紙

選者名

しゃげん

特	6	5	4	3	2	1
山 ^{やま} 薩 薩 ^{さつ} や戸棚の奥の処方 ^{じやう} 交	ふ ^ふ ふ ^ふ ふ ^ふ のサ ^さ 蘭 ^{らん} 草の香々 ^い 枕 ^{まくら} かな	関店 ^{かんてん} のラストソングや明 ^{めい} 易 ^い し	日生 ^{にっしょう} し区画の端々 ^{はたん} 精米所	禾 ^こ のナ ^な を ^を まん中 ^{ちゆう} には ^は 分 ^{ぶん} 血 ^{けつ} けみ	せ ^せ ばあ ^あ 子の ^の 肌 ^{はだ} の ^の 近 ^き さ ^さ や氷水	刀 ^{やいば} 要 ^{よう} やスパイの如く ^{ごとく} 会話 ^{かいわ} する

選句用紙

選者名

二罪

特	6	5	4	3	2	1
敗戦忌門司港駅のセロマルル	団扇持ち粋な男やせやい	曲辰婦にも乳房のふたつ鳳仙サ化	十一時二分ハン置く長崎に	鳳仙花小蟹 ^{カニ} 埋めしところより	鳳仙花障子一枚閉め残す	火の国を切り裂く地震酷暑なほ

選句用紙

選者名

山藤町彦

特	6	5	4	3	2	1
	山家いゆうに風をよせ今更の入	おめでたることも幸せ鳳仙花	ナガサキの狭竹桃の夏屋かき	三ノ角り ^{いづれ} をいかに合のみし ^{いづれ} 竹屋仙	飛び乗るを待ちて出ぬ風秋立ちぬ	（化）おと ^{おと} り ^{おと} あ ^あ の ^の れ ^れ おと ^{おと} り ^{おと} あ ^あ の ^の れ ^れ 己 ^{おのれ} の ^{おのれ} を ^{おのれ} さかし ^{おのれ} り

山藤や戸棚の奥の処方箋

選句用紙

選者名 上窪泰平

特	6	5	4	3	2	1
家 ^{うち} じゅうた ^ン 風を走らせ盆 ^{ハシ} の入	夏 ^{ナツ} 暖 ^{ナグサ} の廉 ^{レナ} くぐさうな ^{ウナ} じの美 ^ミ のナ	背 ^セ 丈越 ^{ヤス} す夏 ^{ナツ} 草 ^{クサ} の山 ^{ヤマ} 休 ^ユ 耕 ^{コウ} 田 ^{デン}	ほうせんか ^{ほうせんか} 昭 ^{ショ} 和 ^ワ 約 ^{ヤク} しき頃 ^{キョウ} の庭 ^{ニワ}	誰 ^{ナニ} 任 ^ニ まぬ実 ^ミ 家の庭 ^{ニワ} に鳳 ^{ホウ} 仙 ^{セン} 花 ^カ	一族 ^{イツク} の遺 ^イ 影 ^{キョウ} 見 ^ミ つめし夏 ^{ナツ} 庭 ^{テイ} 敷 ^シ	夏 ^{ナツ} 庭 ^{テイ} 敷 ^シ 碁 ^キ を打 ^ウ つ音 ^ネ の遠 ^{トウ} かりき

選句用紙

選者名 鮫島しゅうん

特	6	5	4	3	2	1
とつとつど腹の子重く盆踊	祭壇の真澄の鏡秋に入る	炎昼や下水の底に丸い空	母愛でし紅きフリルや鳳仙花	観光バス降りて連山涼新た	本州を大きく移動夏の旅	敗戦忌門司港駅のゼロマイル

選句用紙

選者名

山本わかこ

特	6	5	4	3	2	1
せがむ子の肌の近さや氷水	火の国を切り裂く地震酷日者なほ	十一時二分ペン置く長崎己心	終戦日あの日も同じ夾竹桃	刀豆 ^{マメ} やスパイの如く会話する	少日傘彼女に影を多く遣り	蟬時雨叩きつけては畳み掛け

選句用紙

選者名

七
三

特	6	5	4	3	2	1
南国の山河に張りのある夕立	日盛の露地極楽の余り風	敗戦忌門司港駅のゼロマイル	十一時二分パン置く長崎忌	終戦日あの日もたしなざるうどん	勝手には思はぬ事実鳳仙花	夏蝶も目だけで追うていたライオン

選句用紙

選者名

服部 梅句

1	背丈越す夏草の山休耕田
2	黙禱の長き祈りや蟬時雨
3	塩醬油控える暮ろし鳳仙花
4	葦立立つ一夜孤高の月下美人
5	もう十年生きたと決めて鰻食ふ
6	子の辞書の「性」の黒ずみ鳳仙花
特	一族の遺影見つめし夏座敷

選句用紙

選者名 米田よし

1	下ツァツのカレーのしみや鳳仙花
2	ナカサキの夾竹桃の真昼かな
3	入院にママ行きにけり鳳仙花
4	大仏や頬のてかりや晩夏光
5	身に過ぎし得物引提げよろり蟻
6	ないしよたよ友の告白鳳仙花
特	どつどつと腹の子動く盆踊

選句用紙

選者名

岡本へち手

特	6	5	4	3	2	1
祭壇の真澄の鏡秋に入る	書物干し書架改むる風の道	せがむ子の肌の近さや氷水	火の国を切り裂く地震酷暑なほ	電話口母笑はせて今朝の秋	十一時二分ペシ置き長崎忌	謄本に思はぬ事実鳳仙花

選句用紙

選者名 山本

打^う法^{ぽう}

特	6	5	4	3	2	1
風鈴の身いろさもせず午後六時		山繭や戸棚の奥に処方箋	謄本に思はぬ事実鳳仙花	砂日傘彼女に影を多く遣り	肌脱 ^も ぎ ^ぬ の老爺の背 ^な 中の般 ^{はん} 若 ^わ かな	呆 ^も けたることも幸せ鳳仙花

選句用紙

選者名

富野香衣

1	丁シヤジのカレーのしやや鳳仙花
2	昼寝覚めたしの形たしがめる
3	日傘からはれ出す赤のフコイダに
4	十一時二分パン置くと長崎己志
5	助手席に残るシート原爆己志
6	家じゅうに缶を走りせ盆の入
特	まっ子をまん中にして盆休や

選句用紙

選者名

宮本 乙子

特	6	5	4	3	2	1
ダンス果て無人の舞台 鳳仙花	昼寝覚めたしゝ形たしめる	化鮎己の石をさざしけり	勝本に思はぬ事実 鳳仙歌	観光バス降りて連山涼新也	園庭に燥ぐ声なく 鳳仙花	港にて木樨とともに娘待つ

選句用紙

選者名

福田 流弥

特	6	5	4	3	2	1
たどたどしひらがな並ぶ星祭	鎮守社や今も涼しき棕の洞	鳳仙花小蟹埋めしところより	弱虫の遠い故郷りんご園	広島己心お好み村のソースの香	なにしだよ友の昔白鳳仙花	だれかれが皆知り合ひで夏祭

選句用紙

選者名 山崎 たか

1	2	3	4	5	6	特
ほうせんか昭和約しき頃の庭	身に過ぎし得物引っ提げよろり蟻	終戦日今も平ふ墓はなほし	同僚の机へ檸檬ひとつづつ	だれかゝが皆知り合ひて夏祭り	今年また八月八日ご朱印日	もう十年生きると決めて鰻又喰ふ

送句

清記用紙(番号)

(花山) 写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
団扇持ちすいな男や女やと	✕			どつどつと腹の子動く盆踊り	一族の遺影みつめる夏座敷	日傘からはみ出す赤のランドセル	電話口母笑はせて今朝の秋	Ｔシャツのカレーの染みや鳳仙花	黙禱の長き祈りや蝉時雨

持

選句用紙

選者名

友澤一途

1	2	3	4	5	6	特
日に焼けた軍夏にふたつ鳳仙花	身に過ぎし得物引提げよろり蟻	誰住まぬ実家の庭に鳳仙花	膝本に思はぬ事実鳳仙花	Tシャツのカレーのしみや鳳仙花	蟬しぐれおせ再入院の日となりぬ	呆けたることも辛や鳳仙花

選句用紙

選者名 山下疾風

1	2	3	4	5	6	特
終戦日 今も弔ふ墓はなし	電話口 母笑はせて今朝の秋	山伏の護摩子 木材火くはど暑さかな	閉店のラストソングや明易し	謄本に思はぬ事実 鳳仙花	因鮎 己の石をさがしけり	母急死でし 紅きフリルや鳳仙花